

教育事業名「ユース オブ ワールド 2」

★事業の概要★

事業のねらい

日本の青少年と諸外国の青少年が国立大雪青少年交流の家の地域特性を生かした自然体験や文化体験，生活体験をとおして交流することで，自国や他国の文化，伝統等について理解を深め，異なる文化や生活習慣を持つ人々と協調して生きていく態度を培い，グローバルな視点を備えた人材の育成を図る。

期 日

平成26年2月1日（土）～ 2月2日（日）

会 場

国立大雪青少年交流の家

対 象 者

日本の青少年（高校生・大学生）・留学生・A L T ・国際交流員

参加者数：参加募集人数

34名（参加者内訳：日本の青少年10名，留学生・A L T ・国際交流員24名）
30名（参加募集内訳：日本の青少年10名，留学生・A L T ・国際交流員20名）

講 師

東方 郁夫 氏（書創社・美瑛町立美瑛小学校教諭）
中村 智子 氏，多田 宏美 氏（美瑛図書館）
中谷小夜子 氏，真保 義夫 氏，浜田 恵子 氏（美瑛町すすらん大学）

日 程

	7:15	7:30	8:00	9:00	11:40	12:00	13:00	13:30	14:00	14:30	15:30	17:30	21:00	22:30
2/1 (土)	美瑛集 町役 場前													
	①スノーフェ スティバル at びえい雪 遊び広場													
	バス 移動													
	オ ー プ ニ ン グ													
	②スノーアクティ ビティ at 大雪 「スノーキャンドル」													
	③日本文化 体験タイム 「書道」													
	④クッキング & パーティータイム													
	入浴 シャワー 休憩													
2/2 (日)	⑤さ わ や か タ イ ム													
	朝 食													
	準 備													
	⑥スノーアクティ ビティ at かみふらの 「スノーラフティング」 「そりすべり」													
	閉 会 式													
	解 散													
	送 迎 バ ス 出 発													

★プログラム紹介★



「日本文化体験タイム」

日本の伝統文化である書道を体験し、漢字の意味を確認しながら日本の漢字文化について理解を深めた。



「スノーキャンドル」

雪を使った創作体験活動をとおして、自然を活用した冬の芸術文化について理解を深めた。



「クッキング」

ユネスコの無形文化遺産に登録された「和食」を共同で作り、舌だけでなく目で味わう日本の食文化について理解を深めた。



「パーティータイム」

共同で作った手巻き寿司、豚汁、おしるこを味わいながら、食事ができることへの感謝と喜びを国籍の異なる人たちと分か合った。



「さわやかタイム」

交流の家の朝のつどいの中で日本のラジオ体操を英語版で行うとともに、団体紹介を日本語と中国語で行うなど国際色のある取組を行った。



「スノーフェスティバル」

「かみふらの雪まつり」に参加し、スノーラフティングや滑り台等の体験活動や雪像鑑賞をとおして、北海道の冬の芸術文化について理解を深めた。

企画・運営のポイント

- 1 体験活動をとおした国際交流ができるよう、共同作業を取り入れ、コミュニケーションを促すようなプログラムデザインとした。
- 2 雪を体験したことのない留学生も参加することから、雪の特性を活かした体験活動や雪まつりなど北海道の冬の芸術文化に触れる事業展開とした。

事業を終えて(成果と課題)

- 1 複数の国立大学の国際交流センターとのネットワークの構築ができた。
- 2 「新しい公共」型の施設運営に向けた試行年度であることから、民間をはじめ地域の教育力を取り入れたプログラムをデザインすることができた。
- 3 多種多様な価値観、言語や生活習慣の違い等により、プログラムがスムーズに進行しない場面があった。職員の語学力などスキルアップが必要である。

今後の方向性

- 1 「グローバル人材」の育成を目指し、国際理解を深めるための効果的な青少年国際交流プログラムの開発を3カ年計画で進めていく。
- 2 実行委員会を主体とした運営組織の機能が発揮できるよう、3年間のプログラム構成を体系化し、国境を越えた友情の連帯を育む国際交流事業へと発展させたい。